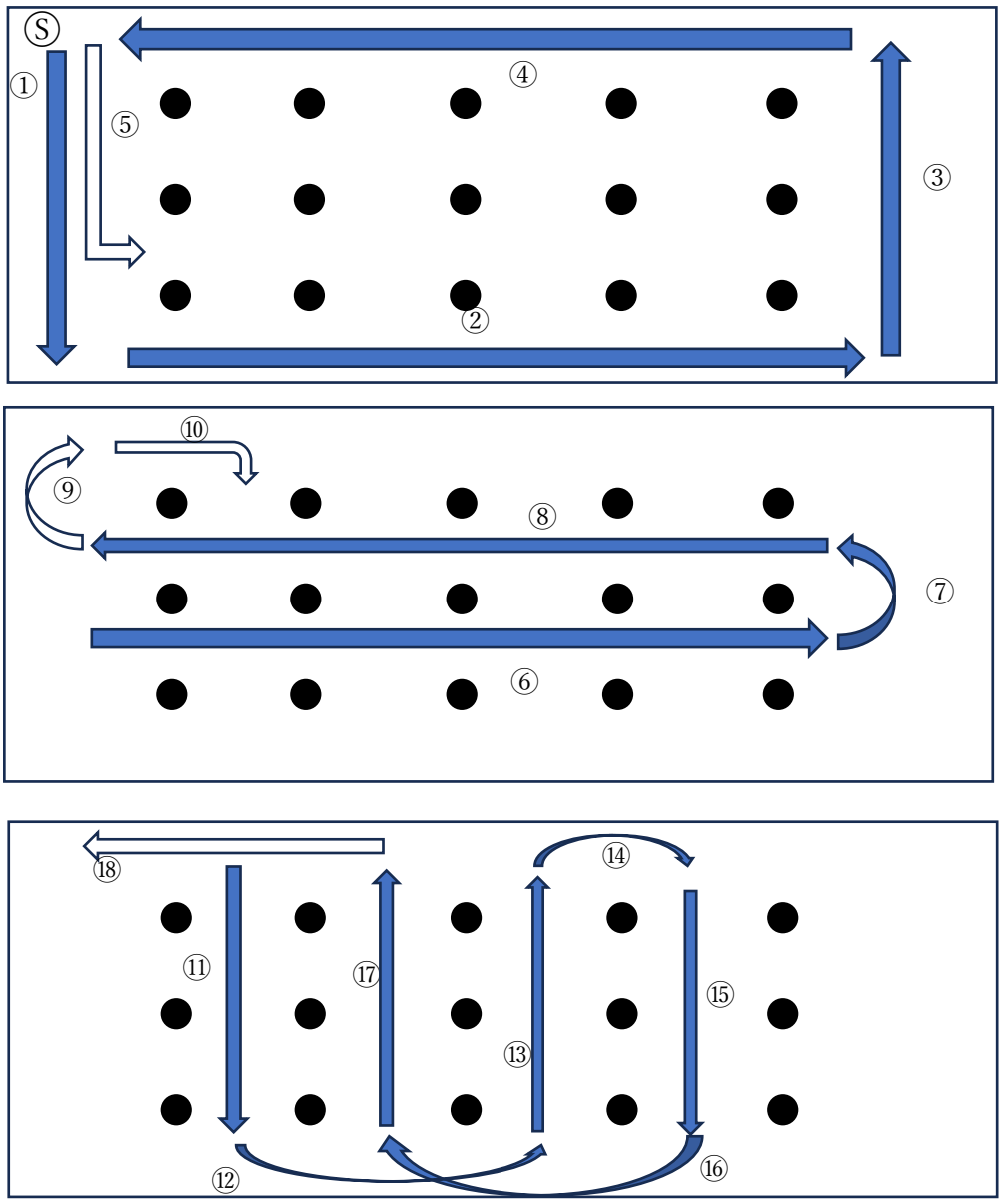
SS 整備講習会資料

JA 中野市園芸課

1、圃場の散布経路例



※⑱まで終わったら、**外周だけ**往路（①～④）と**逆回り**かつ**果樹側のみ**の散布ノズルを開いて散布する。

りんご例）車速：時速 2km、散布圧：1.5MPa、エンジン回転数：2,000 回転/分、標準ノズル（立木果樹）

ぶどう例）車速：時速 2km、散布圧：1.5MPa、エンジン回転数：1,800 回転/分、広角ノズル（棚面果樹）

①～④：上方および果樹側のみの散布ノズルを開く

⑤、⑨、⑩、⑱：散布ノズルを閉じる

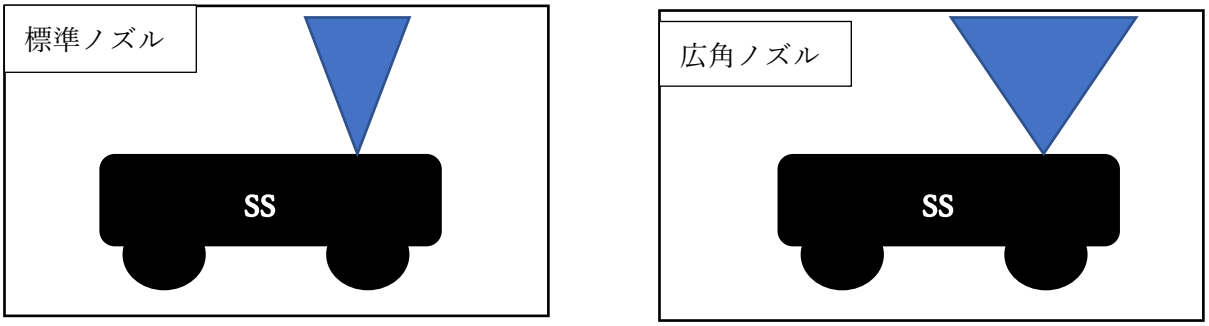
⑦、⑫、⑭、⑯：旋回時、果樹側のみ散布ノズルを開く

上記以外：全方位散布

具体的にファンの強さはぶどうの棚面から 2ｍまで水柱が出るように散布する。

（参考事例）旋回時の外側は対象に対して当たる薬液量が少なくなるため、栽植列と進行方向が平行になるように列に入る前にバックしている方もいます。

標準ノズルと広角ノズルのイメージ図



立木果樹は樹高が高いため、高く散布するために標準ノズルを使用。
ぶどう等の棚面果樹は立木果樹程高く散布する必要がないため、広く散布できる広角ノズルを使用。
※商品によって異なりますが、標準ノズルが 30 度位、広角ノズルが 60 度位の角度で散布します。

もしも散布ノズルを間違えて散布してしまったら…。
事例 1：りんごの散布に広角ノズルを使用　→　りんご樹の上部まで薬液が届かず、ダニが多発
事例 2：ぶどうの散布に標準ノズルを使用　→　SS の通った上部のみ葉病斑が散見

2、ドリフトしやすい条件と対応策
- 風が強い　→　散布時間帯は風のあまり吹いていない朝や夕方
- 散布量が多い　→　適正な量を散布する（防除暦の散布量を参照）
- 散布圧が強い　→　適正なノズルを用いて適正な散布圧で散布する　など

3、ドリフトしない事前の対策
- タンクやホースの洗浄を徹底する
- 近くの生産者とよく連携をとる（袋掛け後の散布前に袋掛けをしてもらうなど）
- 遮へい物や緩衝地帯を設ける（目合いの細かい防風ネット設置、ソルゴー栽植など）
- 近くに住宅がある場合、住宅方向に散布しない
- 樹のない外側方向には散布しない（コックを止める）
- 補正散布を行う（十字で通る散布をする）
- 外周散布を行う
- 死角ができる樹形で栽培しない
- ドリフト低減ノズルを使用する　など

4、散布時の注意点

・旋回箇所の散布はかかっているか？（旋回時の外側は対象に当たる薬液量が少なくなりがち）

・散布死角ができやすい状況は枝が重なっている所や樹冠の内側

⇒　薬液が到達しにくい所が病気になりやすい

⇒　薬液が到達するように枝を空かせる。栽植密度が狭かったら、間伐を検討する。

・散布に気を取られすぎて、事故にならないようにする。(特に前方に注意する)

・雨天時、雨天後の傾斜地は地面がぬかるんでいる所があるため、散布前に確認し、散布する（傾斜地でぬかるんでいた場合、散布を延期する)。

・病気は比較的かかりにくい葉の表から侵入するため、葉の表にもかかるように散布が通りやすい棚面にする（太枝はおかない、枝を置きすぎない）

5、散布後の作業

・使用後は清水で洗浄する（車体、ホース内、薬液タンクなど)。

清水を通し、ホース内に残った農薬を洗い出す（清水になるまで)。

ストレーナー（薬液からごみ等の異物を取り除く為の部分）は清水とブラシで洗浄する。

・冬期保管は凍結防止のため、水抜きを行うか、凍結防止剤を使用する。

6、最後に

・事故にならないように走行経路に障害物がないような管理を行う。

・後ろに気を取られすぎて、前方不注意にならないようにする。

・散布量については農協が発行している防除暦をご確認ください。(適期に適正量を散布しましょう)

・散布後は SS を洗浄する（残った農薬で残留基準値超過にならないようにする）

⇒産地イメージにも関わるため注意する。